

2027年卒「リクルーターとの接点に関する調査」

2026年9月発行

学生優位の売り手市場が続く、企業側が一方向的に選ぶのではなく、「選ばれる」採用を意識する時代となっている。そんな中、学生と直に接点をもつリクルーターの担う役割も変化し、さらに重要性が増している。

今年就職活動を行った2027年卒学生を対象にリクルーター※との接点について調査をし、リクルーターの印象や就職活動への影響度合い等を分析した。過去データとの比較も一部交えながら紹介する。

※本調査では、企業側から受けたアプローチについて回答（自分から約束を取り付けるOB・OG訪問は除く）

■ 目次

- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| [1] リクルーター面談の経験有無 | [6] リクルーター面談での話題、形式 |
| [2] リクルーター面談を受けた社数 | [7] リクルーターと接点をもって良かったこと／良くなかったこと |
| [3] リクルーターと接点をもった業界 | [8] 志望度への影響 |
| [4] リクルーターと接点をもったきっかけ | |
| [5] リクルーターと接点をもった時期 | |

■ 調査概要

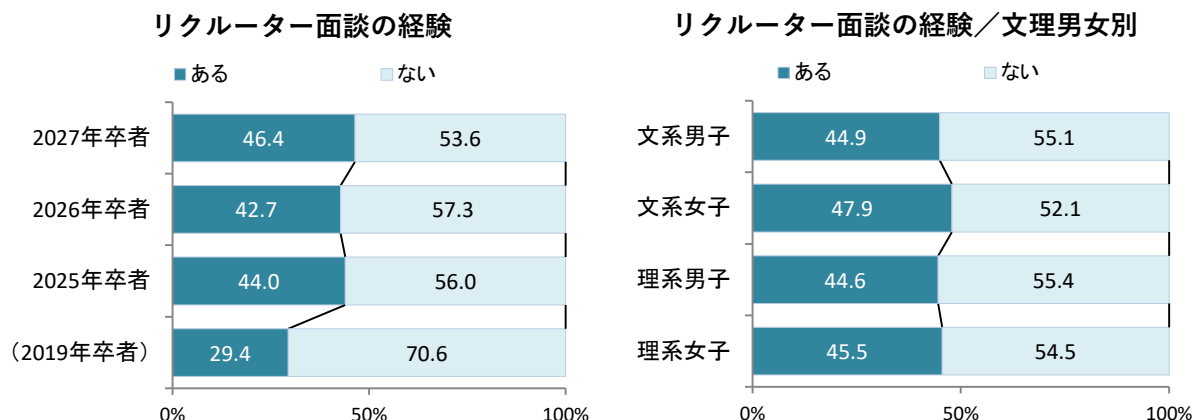
調査対象：2027年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
 回答人数：916人（文系634人、理系282人）
 調査時期：2026年8月5日～12日
 調査方法：インターネット調査法
 サンプルング：キャリタス就活2027学生モニター
 調査機関：株式会社キャリタス／キャリタスリサーチ

*構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある

【1】リクルーター面談の経験有無

2027年卒予定者のうち、就職活動中にリクルーターとの面談経験が「ある」と回答した学生は46.4%。ここ数年は4割台が続き、大きな変化は見られない。ただ、コロナ禍前の就活生（2019年卒者）と比べると10ポイント以上増加しており、企業のリクルーター活用が一気に進んだ様子が読み取れる。

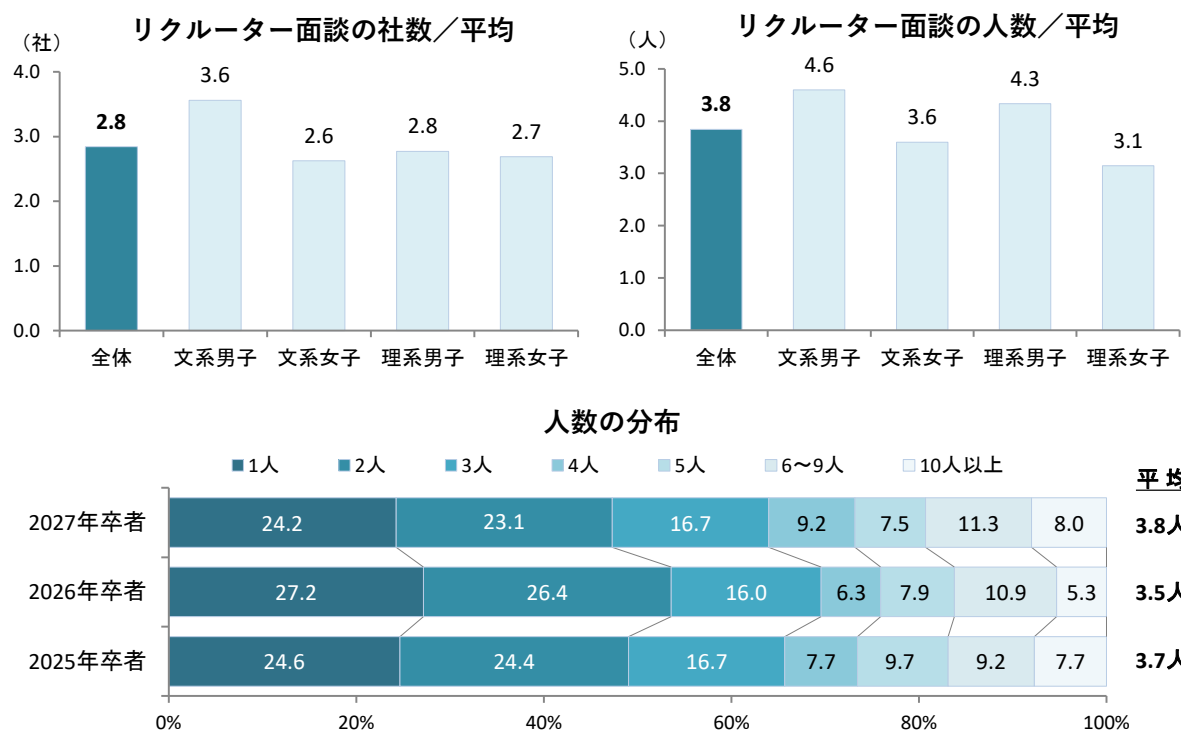
2027年卒者を文理男女別で見ると、いずれも4割台半ばを示し、属性による大きな差は見られない。



〔2〕リクレーター面談を受けた社数

リクレーター面談を受けた学生に、その人数や企業数を尋ねた。リクレーター面談を受けた企業の数は一人あたり平均2.8社で、人数は3.8人。男子の方が女子よりもやや多く、特に文系男子は他の属性より多いのが目立つ(3.6社)。

人数の分布を見ると、約半数が1~2人にとどまる一方で(計47.3%)、「10人以上」と面談したという回答も一定数見られ(8.0%)、学生によって差が大きい。なお、平均人数は過去2年より多い。



〔3〕リクレーターと接点をもった業界

リクレーターと接点をもった企業の業界をすべて選んでもらった。全体で最も多かったのは「銀行」(14.8%)、僅差で「情報・インターネットサービス」(14.6%)。極端に数字が集中している業界は見られない。文理別に集計すると、文系のトップは「銀行」で、理系は「建設・住宅・不動産」。

リクレーターとの接点が多い業界 TOP10

全 体			文 系			理 系		
	順位	割合(%)		順位	割合(%)		順位	割合(%)
1	銀行	14.8	1	銀行	18.1	1	建設・住宅・不動産	17.3
2	情報・インターネットサービス	14.6	2	人材サービス・人材紹介・人材派遣	17.4	2	情報・インターネットサービス	14.2
3	人材サービス・人材紹介・人材派遣	14.1	3	情報・インターネットサービス	14.8	3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.6
4	建設・住宅・不動産	13.9	4	保険	12.8	4	自動車・輸送用機器	11.8
5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.5	5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.4	5	調査・コンサルタント	10.2
6	調査・コンサルタント	10.4	6	建設・住宅・不動産	10.4	6	医薬品・医療関連・化粧品	9.4
7	保険	7.1	7	調査・コンサルタント	10.4	7	電子・電機	8.7
8	自動車・輸送用機器	7.1	8	証券・投信・投資顧問	6.4	8	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.9
9	証券・投信・投資顧問	5.4	9	運輸・倉庫	6.0	9	機械・プラントエンジニアリング	7.1
10	運輸・倉庫	4.9	10	自動車・輸送用機器	5.0	10	銀行	7.1
				専門店				

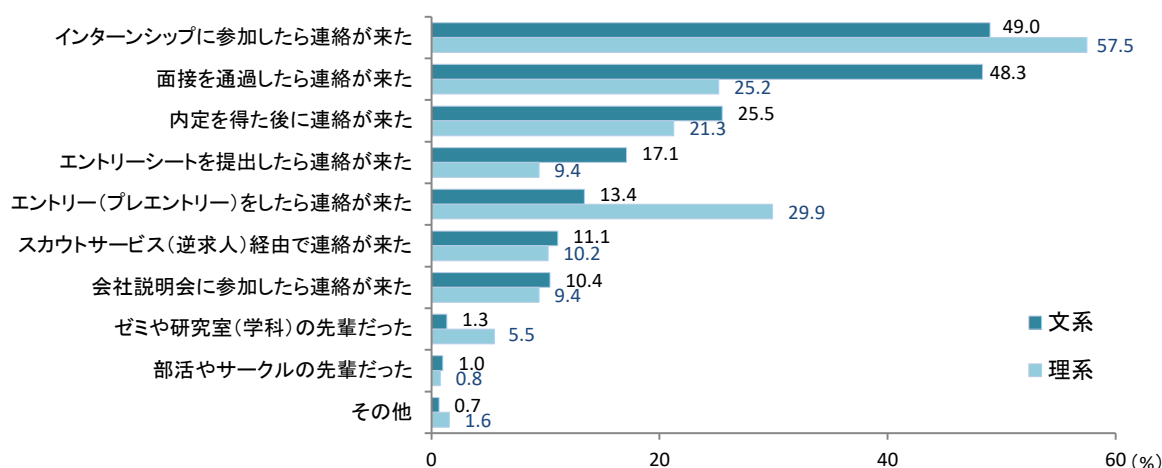
※全40業界

〔4〕リクルーターと接点をもったきっかけ

リクルーターと接点をもったきっかけ(どんなタイミングで連絡を受けたのか)を複数回答で尋ね、文理別に集計した。最も多いのは文理ともに「インターンシップに参加したら連絡が来た」。文系の約半数(49.0%)、理系は6割近くに上り(57.5%)、プログラム参加後のフォローとしてリクルーターがコンタクトを取るケースが多いことがうかがえる。

文系は「面接を通過したら連絡が来た」(48.3%)が僅差で続き、ある程度選考が進んだ段階で連絡を受けるケースも多い。一方、理系は「エントリーをしたら連絡が来た」が2番目に高いなど(29.9%)、声がかかるタイミングが文系よりも早め。

リクルーターと接点をもったきっかけ／文理別

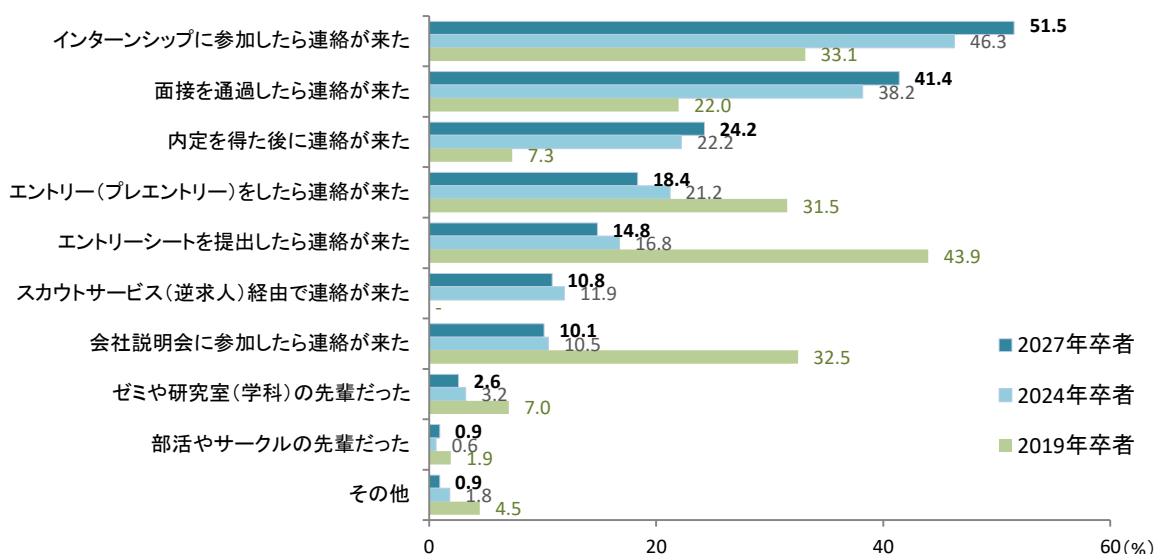


経年でも見てみよう。3年前の2024年卒者、コロナ禍前の2019年卒者と比較した(文理計)。

27年卒・24年卒の上位3つは同じで「インターンシップに参加したら連絡が来た」「面接を通過したら連絡が来た」「内定を得た後に連絡が来た」の順。3項目のいずれも、19年卒から大きく増加した。繋ぎとめや辞退防止(選考、内定)のためのフォローの役割が強まったことがうかがえる。

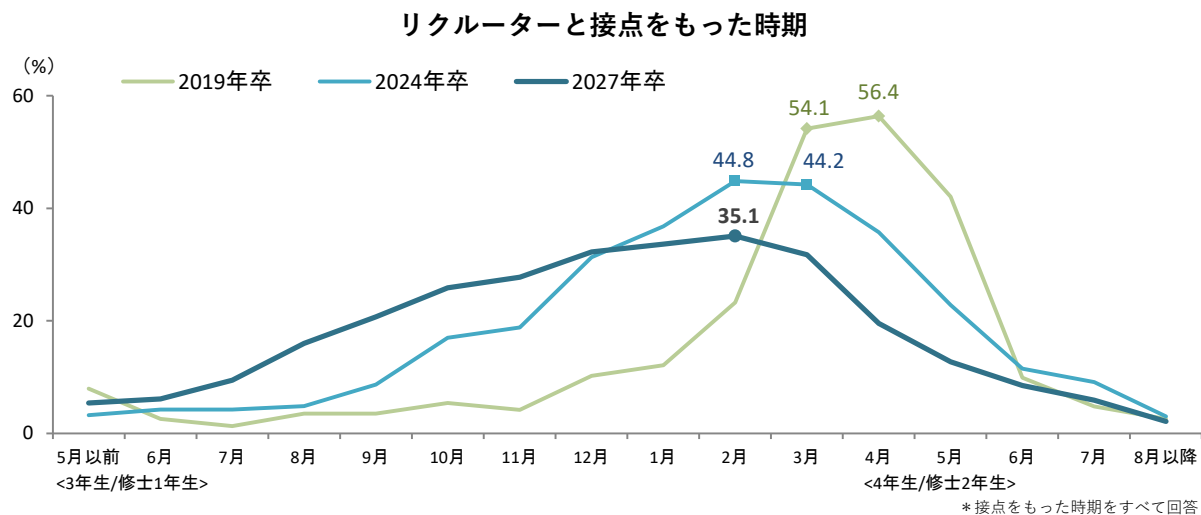
一方、19年卒は「エントリーシートを提出したら連絡が来た」が最多(43.9%)。エントリーシートを基に学生に面談を行うケースが多く、選考要素が強かったが、スクリーニングから繋ぎとめへと全体的に変化してきた様子が見て取れる。

リクルーターと接点をもったきっかけ／経年比較



〔5〕リクルーターと接点をもった時期

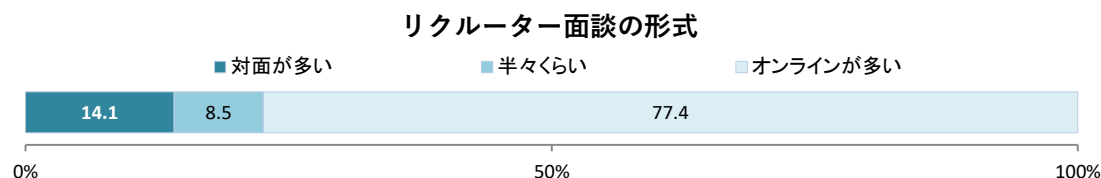
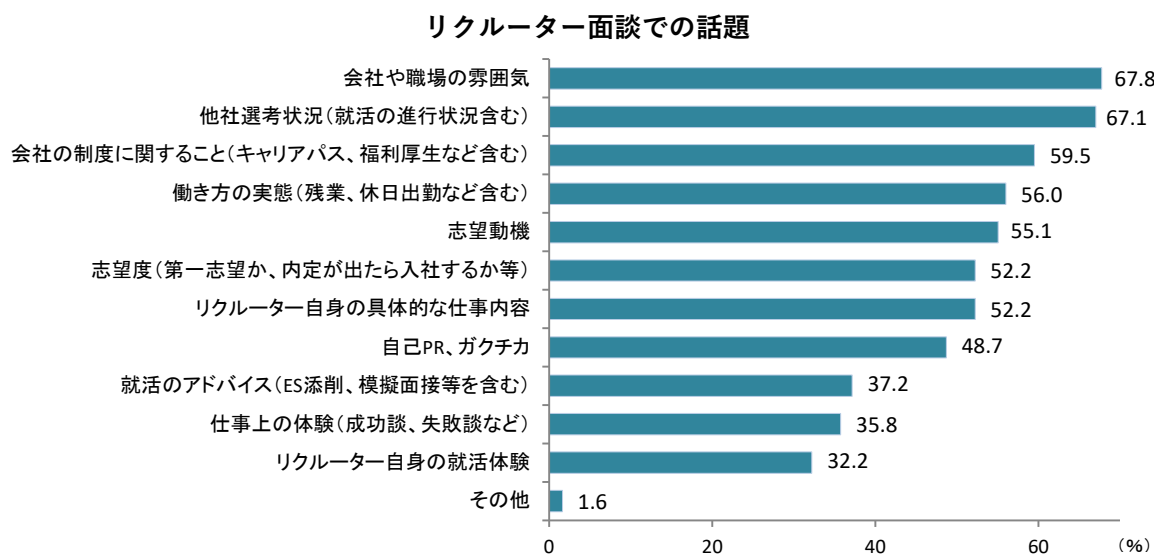
リクルーターと接点をもった時期(月)についても同様に、2019年卒者、2024年者と比較した。19年卒は3月と4月に大きな山が見られ、就活解禁後に一斉にコンタクトを受けた様子が見て取れる。24年卒ではピーク時期が2月・3月へと1カ月前倒し、早期化の影響が確認できる。また、山がなだらかになり時期の分散化も見られる。そして27卒ではピークと呼べる時期はなく、3年生の8月頃から4年生の5月頃まで広く分散。リクルーターと長く接点を持ち続けるケースが増えたと推測できる。



〔6〕リクルーター面談での話題、形式

リクルーター面談では、どのような話をしているのだろうか。「会社や職場の雰囲気」(67.8%)、「会社の制度に関すること」(59.5%)、「働き方の実態」(56.0%)などが上位に挙がり、リアルな実態が知りたいという学生の声にリクルーターが応えている様子がわかる。一方、「他社選考状況」(67.1%)、「志望度」(52.2%)など、企業側が把握したい内容もしっかり確認されているようだ。

なお、面談の形式は「オンラインが多い」という学生が8割近くを占める(77.4%)。

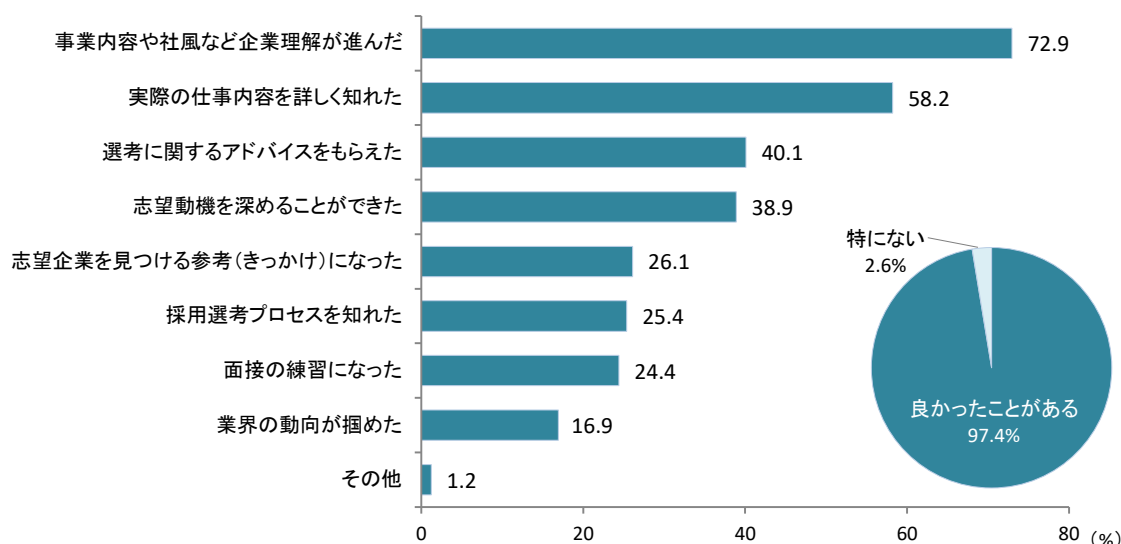


〔7〕リクレーターと接点をもって良かったこと／良くなかったこと

リクレーターと接して良かったことがあるという学生は97.4%で、大半が好意的に捉えている。

具体的な項目を見ると、「事業内容や社風など企業理解が進んだ」が最も多く(72.9%)、「実際の仕事内容を詳しく知れた」(58.2%)が次点。企業が公開している情報だけでは不十分な部分を補う役目を果たしていることがわかる。また、「選考に関するアドバイスをもらえた」(40.1%)、「志望動機を深めることができた」(38.9%)など、選考への好影響を挙げる学生も比較的多い。

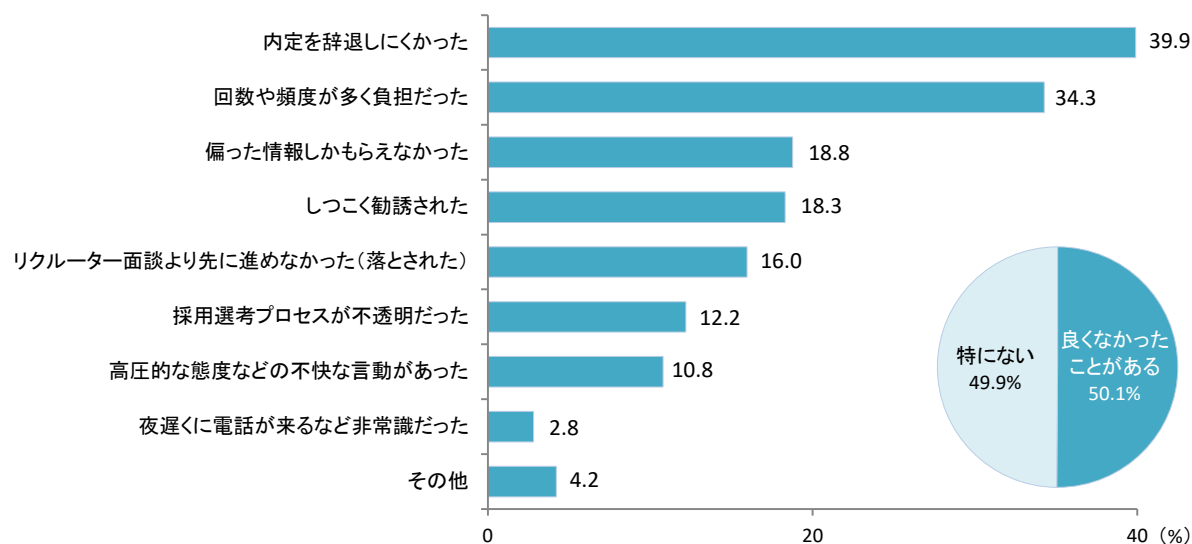
リクレーターと接点をもって「良かったこと」



逆に、良くなかったことがあるという学生は50.1%。約半数がリクレーターにマイナスの印象を抱いたことがあると回答。具体的には、「内定を辞退しにくかった」が最も多く、約4割(39.9%)。親身に相談に乗ってもらったことで、断りにくさを感じるケースが多いようだ。それだけ関係構築ができていたことの裏返しとも言える。次いで「回数や頻度が多く負担だった」(34.3%)が続く。

「採用選考プロセスが不透明だった」「先に進めなかった(落とされた)」といった項目を選んだ学生は1割台にとどまった。リクレーターの役割が、かつてのような面接前のスクリーニング的な面よりも、企業理解促進や選考への動機づけといったサポートに力点を置いたものになっているからだろう。

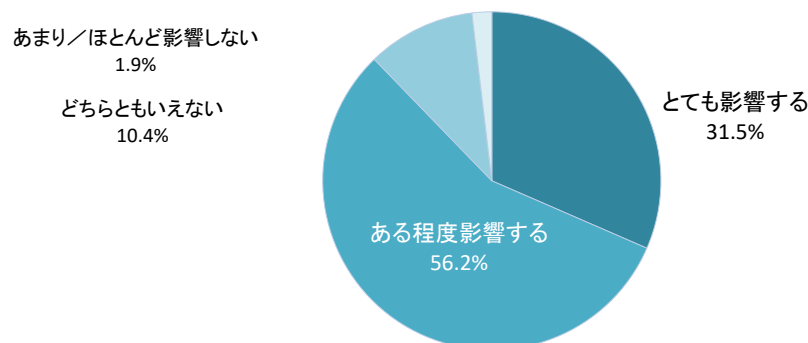
リクレーターと接点をもって「良くなかったこと」



【8】志望度への影響

リクルーターの印象が、その企業への志望度にどの程度影響するのかを尋ねた。志望度に影響があると回答した学生は、「とても影響する」（31.5%）と「ある程度影響する」（56.2%）をあわせて9割近くに上った（計87.7%）。リクルーターのもつ影響力や、担う役割の大きさがうかがえる。

リクルーターの印象による志望度への影響



■ 良い印象をもったリクルーター

- 仕事のやりがいなど良い面だけではなく、その企業・業界で働く上で大変なことなど悪い面や、年収や家賃補助といった福利厚生面を、包み隠さず正直に話していただいたリクルーターは良かった。 <文系男子>
- 次に受ける予定の面接でどのような質問を聞かれることが多いのか教えていただき、直前には応援のメッセージがきたことに好印象を持った。 <文系女子>
- 面接のフィードバックをもらった。面接の動画を実際に確認して、細かくアドバイスをしてもらった。その後の就職活動で非常に役に立った。 <文系男子>
- 職場環境などをしっかり教えてもらったことが良かったです。特に残業が多い月のリアルなども知れたのが良い印象でした。 <理系女子>
- 私が将来したい仕事を現在されている方と面談をしたので、ロールモデルになった。 <文系女子>
- 自分が過去に話した内容をしっかり覚えていて、適時にその話題を振って下さった方には特に良い印象を持ちました。 <理系男子>
- 親身になって何度も面談を行なって、自社にマッチしているかどうか、本当に自分に向いている職種や企業はどこかなどを深掘りしていただいたこと。 <理系女子>
- 内定承諾や他社の内定辞退を迫らず、一度きりの新卒だからよく考えて選んで、と言ってくれたことに、良い印象を持った。 <文系女子>

■ 良くない印象をもったリクルーター

- 学歴に関する話で明らかに不適切な発言をされて、企業に対して不安を感じた。結局、それがきっかけでその企業の選考を辞退した。 <文系男子>
- 企業パンフレット通りのことしか話さない方は、あまり仕事が好きではないのでは…と感じてしまうこともあった。 <理系男子>
- こちらの意思の確認がないまま、何度もリクルーター面談を取り付けられてしまったこと。 <文系女子>
- あくびをしてる人がいた。本当に社会人なのかと目を疑った。 <文系男子>
- あちら側の通信環境が悪くて10分無駄にした挙句、時間が足らず追加の面談を設定された。 <文系女子>
- 会社内ではなく近くの喫茶店だったのは良かったが、話を聞いてくださる間ずっとパソコンに打ち込んでいたので、あまりコミュニケーションをしている感じがしなかった。 <理系男子>
- 内定承諾をせかされたのは印象が悪かった。また、途中からあだ名で呼ばれ出して、距離感があまり適切ではなかった。 <文系女子>
- エントリーシートの添削をお願いしたら ChatGPT で添削したと思われる返答が返ってきた。 <理系女子>